

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191700046		
法人名	有限会社ササキ総合管理サービス		
事業所名	グループホームすえひろ温		
所在地	北海道瀬棚郡今金町字今金303-1		
自己評価作成日	平成29年2月2日	評価結果市町村受理日	平成29年4月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0191700046-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 マルシェ研究所
所在地	江別市幸町31番地9
訪問調査日	平成 29 年 3 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・テラスがあり外靴をはくことなく外に出られ、中庭に植えている花や野菜を眺めることができる。 ・裏の畑には野菜を作っている。春には利用者さんと一緒に芋まき、枝豆とうきびの種まきを行い、秋には収穫し枝豆もぎを行い、今年町内会長はサツマイモを作ってくれた。 ・秋には1日かけて辻警町まで果物狩りへ家族さんと一緒に行って楽しんでいます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームすえひろ温は、今金町の中心部に立地しています。地域住民とは顔見知りの関係があり、交流が日常的にあります。事業所の夏祭りには地域から参加があり利用者と一緒に楽しいひと時を過ごしています。町主催の文化祭には利用者の作品を出品し、展示を見学に行ったり、中・高生の職場体験受け入れなど地域との関係を重視した支援に取り組んでいます。運営者は定期的に職員と面談をし意見や要望を聞き取っています。また法人本部課長も随時来訪し職員の声に耳を傾けています。職員はセンター方式のアセスメントを用いて利用者一人ひとりの思いを大切に支援をしています。事業所内は広くゆったりし明るく広い居間にはソファや移動式の畳敷きベンチがあり利用者は思い思いの場所で過ごしています。2ユニットの間にあるウッドデッキではお茶や日光浴を楽しむことができます。利用者と職員は「笑顔のある穏やかな生活を目指します」の理念通り豊かな自然環境の中で穏やかに生活しています。</p>
--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します			
項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印
67	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
68	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
69	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議の時に復唱し実践につなげている。	事業所開設時に作成されたケア理念である「笑顔のある穏やかな生活を目指します」を、パンフレットや玄関、事業所便りに掲示しています。職員会議で復唱し日々のケアの中で理念を共有し実践に繋がっています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	温の夏祭りには地域の方々や家族にも参加して頂いている。文化祭には作品の展示と見学、歌や踊りの慰問、北高生の施設実習等があり交流している。	地域での顔見知りとの交流が日常的にあります。地域のイベントの参加や町主催の文化祭に利用者の作品を出展し展示会場へ見学に行ったり、中高生の職場体験の受け入れを行っています。事業所の夏祭りには近隣にチラシを配り、家族や地域住民が多く参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流広場で認知症や介護をテーマにした講演会があり、地域の方を対象としている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域の方に施設内の状況説明を行ったりしている。運営委員の方に温の畑でサツマイモを作って頂いた。	系列3事業所合同で様々なテーマを議題に、利用者、家族、地域、行政、運営代表者、職員が参加し定期的に会議を開催しています。討議内容は運営に反映しています。議事録は玄関に掲示し自由に閲覧できるようにしています。	多くの構成員が参加していますが、家族の参加は各事業所1家族ずつとなっています。多くの家族に参加を促し、より多くの意見や要望を吸い上げサービス向上に活かすよう期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町保健福祉課の職員来設。感染症の吐物講習ラウンドの実施。判らない事等相談している。	行政職員は運営推進会議に参加しています。町主催の研修会や地域包括支援センター主催の認知症カフェに事業所も参加しています。法人職員が町の窓口に随時訪問し相談や意見交換を行い行政との連携協力関係を築いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加、ユニット会議や職員会議で報告、共有している。夜間のみ防犯対策の為に玄関施錠している。	外部研修に参加した職員が、ユニット会議や職員会議で伝達し共有しています。職員は、マニュアル「身体拘束ゼロの手引き」を閲覧し拘束による弊害の理解に努め、日々業務の中で意識付けをし身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加した職員より会議等で報告して頂き共有。言葉使いにも注意をはらっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がおり、連絡を取りながら対応しているが、学ぶ機会がなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、担当者同席し説明を行い、理解を得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常会話の中から思いをくみとったり、家族からは来設時に要望を伺っている。	利用者の意向は、会話や表情から汲み取るようにしています。家族には利用者の様子を掲載したユニット毎の事業所便りを毎月送付しています。また年1回開催される家族会や来訪した際に意見や要望を聞き、来訪困難な家族には電話で要望を尋ねたり近況を報告しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議で意見交換したり、個人面談等で意見や相談を聞いてくれたりしている。	職員会議やユニット会議、また日常業務の中で意見交換をしています。年1回、法人代表や専務との個人面談があり直接意見や要望を話す機会を設けています。本部課長も随時来訪し職員の声に耳を傾けています。リフレッシュ休暇制度や研修への支援など労働環境を整備しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談及び状況に合わせ、個々の意見をのべる機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加させて頂いているが、もっと反映できるのではないかと。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	外部の研修や勉強会に参加しあっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを取りながら、本人の出来ない部分を支援しながら信頼関係が保てるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話等で要望をきいたり引き出せるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位を見極め、話し合いながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人の持っている能力にあった事を、達成感を味わって頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お誕生会、果物狩り、夏祭りに参加して頂いている。家族、本人、職員でのチームワークと思っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人の来訪時、ホール、居室で談笑されている。	利用者は地元出身者が多く馴染みの店や通院時に知人と会話をしたり、以前住んでいた家の様子を見に行ったりしています。美容室は馴染みのところに送迎したり、ボランティアが定期的に来訪し関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操、レク等声かけをし、職員が関わりながら良い関係作りに努めている。2ユニット間での行き来もあり、相性座る位置等、日々の状況を見極めながら行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者家族が来られる時もあり、町で行き会う機会があれば声掛けするように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニット会議等で話し合い、希望、意向の把握をしている。	日々のケアの中で伝達ノートを活用し利用者の様子や会話、状態の変化などを書きとめています。ユニット会議で話し合い職員間で情報を共有し本人の意向に沿うよう努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族からの会話の中で聞き取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	伝達ノートの活用、職員間での情報共有把握に努め、表情や声色、動作などで把握するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式活用、ご家族、本人の意見や要望を反映できるよう、職員間で話し合い介護計画を作成している。	介護計画は、個人記録、伝達ノート、センター方式を活用しています。本人、家族の意向や要望を含めユニット会議で評価し、現状に合った計画となっているかを確認しています。実施状況は個人記録に赤字で番号を付け詳細に記録しています。状態の変化に応じて随時見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記入、状態の変化があった時等、伝達ノートを用い情報の共有に努め、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況や変化を見極めながら、様々な支援ができるよう取り組めるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お祭りの見学、町民文化祭へ出品見学等している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来からの病院へ続けて受診。町国保病院の訪問診療や歯科医の往診を受けている。	希望に応じ従来からのかかりつけ医受診は職員が同行しています。月2回訪問診療があり適切な医療が受けられるように支援しています。非常勤看護師は不定期ですが利用者の健康管理を行っています。受診記録も作成しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師への報告相談を行い、状況により指示を受けたり、受診したりしているが、不在が多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護連絡表の提出や都度情報を行い支援をいただいている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	利用者、家族と話し合い、医療機関と相談しながら、事業所としてできることを支援している。	重度化や看取りに関する指針は、入居時に本人、家族に説明し同意を得ています。事業所で対応できることを説明しながら方針を共有しています。事業所での看取り経験はありませんが、管理者が看取りの外部研修を受け資料をもとに内部研修を実施しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法、吐物処理研修会に参加したりしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防や地域の人たちの協力を得ながら避難訓練の実施、非常食の備蓄もしている。	自然災害ガイドマップと火災のマニュアルを整備しています。避難訓練も年2回消防署立会いのもと、地域住民も参加して昼夜想定訓練を実施しています。月1回防火点検も実施し、災害に備えて非常食や発電機、水、ストーブの備えもあります。救急救命講習も受講しています。	定期的に避難訓練を実施していますがシフトの関係で訓練に参加していない職員がいます。全職員が参加できるようにしていくことを期待します。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目線を合わせて、言葉使いや言い回し、声の大きさ等に気をつけながら対応している。	職員は、利用者一人ひとりの性格を把握しています。誇りを傷つけないよう対応や声掛けに注意を払い、トイレもさりげない誘導を行っています。個人記録も事務所に適切に保管しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう声かけや手助けをし、顔の表情から思いをくみとれるよう心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	利用者さんのやりたいように過ごして頂き、無理強いないペースに合わせて支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院に行かれたりしている方もおり、又カットに来て下さる方もいる。髪の毛の乱れ等気をつけている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好き嫌いを確認し代替えしたりしている。下ごしらえ、食器拭き等その時の利用者のペースに合わせている。	地元の米や食材を多く取り入れ利用者の嗜好に合わせた献立を作成しています。好き嫌いを把握し代替え献立やおかゆや刻み食にも対応しています。職員は利用者と一緒にテーブルを囲み、せかすことなくゆっくりと食事をしています。利用者は力量に応じ手伝いもしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者により量や固さ大きさに配慮し、水分量のチェック、食事や水分をとれない時等代替えし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後就寝前等声かけにて促したり、介助しながら口腔内や義歯の洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々にコミュニケーションを図りながらトイレで排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を作成し時間誘導を行っています。おむつやパッド使用、自立している利用者など、一人ひとりに合った対応をしています。トイレが1ユニットに5カ所あり、トイレ使用が重なることがなく対応できます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、医師や看護師と相談しながら薬の調整を行っているが、コントロールの難しさも感じている。お腹や肛門をマッサージしたりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	曜日指定している方もいます。本人の希望に添えるよう入浴している。	毎日入浴できる態勢は整っていますが、週2回から3回を目安に職員と会話を楽しみゆっくりと入浴をしています。入浴できない場合はシャワー浴や清拭、足浴など利用者の清潔保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペースに合わせて、居室、ソファー、小上がりで昼寝や休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更等記録や伝達で共有、その後の様子も記入し次の受診に繋がるようにしている。誤薬のないよう確認の徹底に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や嗜好品などを記録や会議の中で情報を集め、レクリエーションや趣味等で気分転換できるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	テラスや散歩に出たりしているがもっと機会を増やしたい。季節に合わせてお花見やドライブ、お祭り、地域行事にも出かけている。果物狩りに家族と一緒に رفتりしている。	日常的に事業所周辺の散歩や事業所の畑作業をしています。バスハイクで花見や家族も参加する果物狩りや紅葉狩り、町文化祭郷土芸能発表会見学等、利用者が事業所に閉じこもらないよう季節に応じた支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している方もおり、美容室や買い物の支払いをされたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に電話をかけた、電話を取り次いだりしている。耳の遠い方の場合聞きに入り話しのやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁飾り等季節感を感じられるようにしている。室温の調整に気をつけています。	共用空間は広くゆったりとしています。移動式の6畳の畳ベンチや大きなソファがあり利用者は思い思いの場所で寛いでいます。大きな窓からは太陽の光が差し込み、2ユニットの間にあるウッドデッキは素足で出ることができ、お茶や日光浴を楽しむことができます。清掃が行き届いており木の香りがします。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置を変えたり小上がりを利用し、気の合った人同士が話せるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談しながら写真を飾ったり馴染みの物を置いたりするなど工夫している。	居室には移動式のクローゼットとベットが備え付けられており、大きなクローゼットには私物をすべて収納できます。利用者の馴染みの物や趣味の物などを持ち込み家族と相談し配置を考え居心地の良い居室となるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは分かりやすい表示、手すり等利用者の動線には掴まって歩けるようにしている。		